



適用雑草と使用方法

作物名	適用場所	適 用 雑草名	使用時期	使用量		本剤の 使 用 回 数	使用方法	A C N 等 を含む農薬の 総使用回数
				薬量	希釈水量			
日 本 芝 (こういしば)	—	藻類 コケ類	藻類・コケ類の 発生時	3～4kg/10a (3～4g/㎡)	200～300ℓ/10a (200～300mℓ/㎡)	3 回 以 内	散 布	3 回 以 内
西 洋 芝 (ベントグラス)		コケ類	冬期芝生育期 (コケ類の発生時)	2～4kg/10a (2～4g/㎡)				
花 き 類・ 観 葉 植 物			コケ類生育期	2～4kg/10a	100～300ℓ/10a			
樹 木 等	公園 庭園 宅地 駐車場 運動場 道路 等	イシクラゲ	イシクラゲ生育期	2～4g/㎡	200mℓ/㎡		植栽地を除く 樹木等の周辺 地に雑草茎葉 散布	
		コケ類	コケ類生育期		100～1000mℓ/㎡			

作物名	適用雑草名	使用時期	希釈倍数	使用液量	本剤の使用回数	使用方法	ACNを含む農薬の総使用回数
つつじ類 (鉢植え)	ゼニゴケ	ゼニゴケ生育期	500倍	鉢内土壌表面積1m ² 当たり1ℓ	—	雑草茎葉 散布	—





効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。
- 本剤の所要量を所定量の水に加えてよく攪拌し、じょうろ又は噴霧器でコケ類、藻類に十分かかるように散布する。
- イシクラゲに使用する場合は、雨上がりなどイシクラゲが水を含んで膨潤な時に使用する。
- つつじ類（鉢植え）、花き類・観葉植物に使用する場合は、作物にかかると薬害を生じる場合があるので、直接かからないように注意して散布する。
- カラー、花はすに使用する場合は、湛水状態で使用しない。また、使用后14日間は入水しない。
- 植栽地を除く樹木等の周辺地で使用する場合は、薬剤が樹木類等にかからないように散布する。
- 使用後のじょうろや噴霧器は十分水で洗っておく。
- 公園、庭園等で使用する場合は、特に以下のことに注意する。
 - ① 激しい降雨の予想される場合は使用をさける。
 - ② 本剤の飛散あるいは流出によって有用植物に薬害が生じることを十分注意して散布する。
 - ③ 水源池等に本剤が飛散、流入しないよう十分に注意する。
 - ④ 散布器具、容器の洗浄水及び残りの薬液は河川等に流さず、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理する。
- 本剤は西洋芝に対して薬害を生じるおそれがあるので、高温時に使用しない。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意



- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 散布液調製時及び散布の際は保護眼鏡、農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換する。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意する。
- 公園、庭園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。
- 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管する。

治 療 法…該当なし

魚毒性等…水産動植物（魚類、藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。

使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

保 管…密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。

